

市民後見センター

ほ っ と

ニュースレター

発行 平成 30 年 11 月 1 日
発行者 NPO法人 市民後見センター
ほっと 理事長 井上 博司
〒284-0043 千葉県四街道市めいわ 2-9-8
TEL 043-312-7298
FAX 043-312-7098
URL <http://www.kouken-hot.com>
E-mail office@kouken-hot.com

第 6 号



< 5 年の節目に思うこと >

成年後見制度に関わっていると、遭遇する可能性のあることの一つに、ご本人のご逝去があります。当法人の受任案件でも、今年度既にお一人が旅立たれました。

最愛の方を亡くされたご親族のお気持ちは察するに余りありますが、翻って私たちが行う後見活動について考えると、ご本人に満足していただける支援ができたのかは、亡くなられたご本人には聞くことができず、自ら振り返るしかありません。聞けるものなら、「いかがでしたか？」とお尋ねしたい気持ちです。

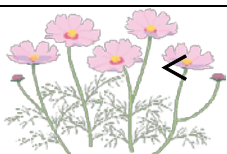
実は、自省の機会は終了時に限らず、日々の後見活動において行うべきものであることは言うまでも

ありません。その基準は、担当者の側にあるのではなく、ご本人の側にあるということを忘れてはいけなと思います。独善に陥らず、常にご本人の気持ちになって考えることのできる態度こそ、我々市民後見人の日々の活動に求められるものだと言えましょう。

5 年の節目を越えた今、担当者一人一人が、『ご本人の思いはどうか』『ご本人が望むことは何か』を常に考えて活動を行うという、いわば初心に立ち返ることの大切さを再認識し、次の 5 年間を突き進んでまいりたいと考えています。



(理事長 井上 博司)



< “後見人さん” と ふきのとう >

下志津病院の利用者さんの中に、成年後見制度が始まると間もなく“後見人”が付いた方がいらっしゃいます。当時、私たちにとって“後見人”はそう身近な存在ではありませんでしたが、年に数回の“後見人”の招集するカンファレンスに、ふきのとうからも参加を求められ、担当者が出席をしていました。

後見人の弁護士さん、利用者さんご家族、病院関係者などの出席で、ふきのとうに求められたものは、ケア内容についての説明や、緊急時の確認などだったようです。素人の良さを自認し市民活動としてのケアをしている私たちにとって、少々気の張る会議

と受け止めていたような気がします。

ここ 10 年ほどの間に在宅で暮らす方たちの中にも、“後見人”の付いた方が少しずついらっしゃるようになりました。

身上監護に類することや見守りをふきのとうで、という形ですが、“後見人”と私たちが連携することで、ふきのとうの目的でもある「我が家で暮らす、その人らしく暮らす」ことを支援することができると思っています。

発行者 注：

当法人ほっとは、ふきのとうさんが最初に市民後見人養成講座を開催して下さった故に誕生した経緯があります。心より感謝申し上げます。



ふきのとう代表・ほっと会員
(森 明子)

活動の現場から

< 後見人の矜持 >

「情けは人の為ならず」この言葉はよく使われ、また、間違っ了解釈も流布しているため、テレビのバラエティー番組でもしばしば取り上げられている。情（なさけ）という言葉は「他人を思いやる心」や「男女の情愛」を示し幅広く使われるが、後見人活動として身上監護や見守りをしている時、自分の行動（親切）がやがて良い報いとなって自分に返ってくると思う人はまずいないだろう。

後見人が被後見人の補助や保佐、成年後見をする時、被後見人の能力が不十分となった部分を補い法的な代替行為を行うため、後見人の立場は被後見人のそれより相対的に強くなっている。このため、優越感を少しでも持てば被後見人への虐待や経理の不正など、あってはならない事件へと発展する可能性

がある。

自分自身が年を重ね、体力や記憶力が低下していることを最近、実感している。後見活動を通して「将来何かのよい報いを期待して」この活動が続けることは後見活動の主旨にそぐわない。社会的な運動のような掛け声で社会奉仕だ、社会貢献だ、共助だ、などと肩をたたかれても乗り気にはなれない。

被後見人の目線で周囲を見渡し、被後見人の生活環境を少しでも改善し笑顔が見られるように気軽に助け合いたい。



(森田 浩)

< 寄り添う後見活動 >

私は、後見活動を始めてから6年目を迎えました。「ほっと」へは先輩から勧められての入会でしたので実際の活動は考えてなく、名前だけの会員という気持ちでした。にもかかわらず数か月後には重度心身障害者の後見人を受任することになりました。

この方は話をすることができないので、どのようにコミュニケーションをとっていけるのかと心配でした。というのは、市民後見人はしっかりとご本人



に寄り添って、希望や要望をはじめご本人の生活の質を高めていく活動が求められるからです。



お会いする時は、車椅子を押ししたり、本を読んだり、唱を歌ったりと一方通行の関りをしてきました。幸いなことに、ご本人は好きなことやうれしい時等は口を開けて答えてくださるので、それを励みに接してきました。年数を重ねるうちに、今では遠くからでも私の声や姿をとらえて笑顔で迎えてくださるようになり、その笑顔は後見人をさせていただいているからこそ、得られる喜びです。

今の私にとってこの活動はとても大事なものになりました。これからも、ご本人に寄り添って私にできることをしていきたいと思います。



(吉川)

お知らせ (後見等のご相談)

- ① 法人「ほっと」にお電話を!
 - ② [第2日曜日わろうべの里](#)でもお話を伺います (9時~)
- どうぞお気軽にご相談ください

編集後記

今年の秋も、地域の公民館祭りで我ギターアンサンブルサークルは、それぞれの力を出し合って五曲演奏しました。このことは、ほっとの活動にも通じるように思います。



(小堀)